

救援活動が本格化

DMAT、相次ぎ出勤

熊本地震

16日午前1時25分ごろ、地震の規模を示すマグニチュード(M)が7.3と、阪神大震災級の揺れが新たに襲い、被害が深刻化した熊本県に向け、岡山県からの救援の動きも加速した。被災者を支えたいという県民の思いを背負い、各分野のチームが現地に急ぐ。

医療

日本赤十字社県支部は16日朝、熊本地震の被災地に向け、医師や看護師ら8人の救護班を派遣した。救急車など2台に医薬品や縫合セットなど医療資機材と、班員用の寝袋や水、食料も積んで、午前9時半ごろ熊本を目指し出発した。土居正明・業務調整員は「現地の状況はまだ分からないが、被災者に寄り添う活動をしたい」と話した。



被災地へ持参する荷物を準備する日赤県支部の職員ら＝岡山市北区青江2丁目

県内10カ所の災害拠点病院からは「災害派遣医療チーム(DMAT)」が、16日早朝から昼前にかけて相次いで出勤した。初出勤のチームもある。被災地の病院や災害現場に赴き、医療を支援する。川崎医大のドクターヘリも16日朝、現地で活動を始めた。

AMDAと総社市の合同支援チームは15日夜、熊本県益城町に到着し、避難所になっている小学校で診療を開始。16日は2カ所の避難所で診療などをした。

捜索・救助

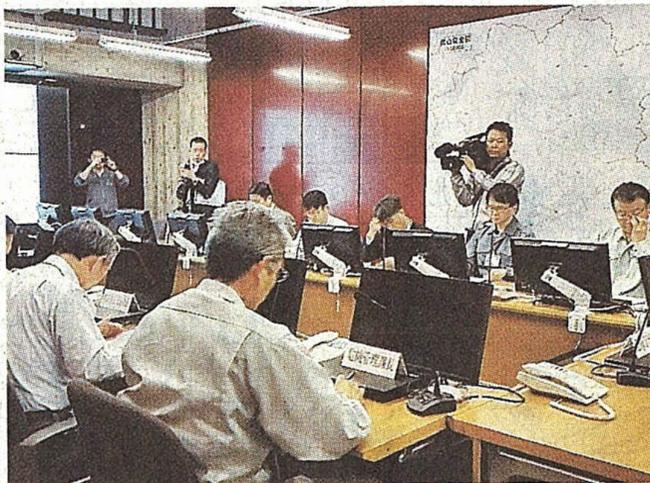
県は16日未明に、緊急消防援助隊52隊184人を派遣、現地で捜索救助活動につく。県警も緊急災害警備隊など88人を追加した。

陸上自衛隊日本原駐屯地(奈義町)からも217人が出発。阿蘇地域で人命救助活動をする予定という。

ライフライン

大規模な断水の対応支援に、岡山市水道局は16日午後1時、職員4人を給水ローリー(3・7ト)などとともに派遣。中国電力も停電復旧へ社員42人と高圧発電機車などを派遣した。

また、熊本市から救援要請を受けた岡山市は、毛布1万6千枚や粉ミルク3万



県は16日、熊本地震に対する関係課長の緊急会議を開き、支援の現状と今後の方針について確認した。県庁

3千袋、紙おむつ6万3800枚、ブルーシート200枚など生活用品を送るため、16日午後にはトラックへ積み込み作業をした。

(中村通子)

◆熊本地震の義援金、受け付け開始 日本赤十字社県支部は、熊本地震の被災者を支援する義援金を受け付けている。中国銀行本店普通口座761168かトマト銀行本店普通口座1430925、いずれも名義は「日本赤十字社岡山県支部 支部長 伊原木隆太」。銀行備え付けの義援金専用振込用紙を使い、通信欄に「平成28年熊本地震災害義援金」と明記し、受領証希望の有無も書く。